

特集 「たけはらファン」はじめました。

Vol. 2

竹原市出身選手で、東京2020パラリンピックゴールボール日本代表の田口侑治選手にお話を伺いました。

●ゴールボールとの出会い

私は小学1年生から高校3年生まで剣道をしており、竹原つばめ会に所属していました。その後、大阪の調理師専門学校で調理師免許を取得して、東京で4年間調理師として働いていましたが、視覚障害により断念しました。そして、国立障害者リハビリセンターに神経やマッサージの資格を取るために進学し、そこでゴールボールと出会いました。ちょうど体を動かしたいと思っていてタイピングで施設・チームに恵まれた環境だったこともあり、始めてみました。

ゴールボールの魅力はやはり見えない中での戦いです。視覚でなく聴覚を頼りに戦うというのは他のスポーツにはないと思います。

●竹原の思い出と魅力

竹原は山と海に恵まれた田舎というイメージが強いです。私は高崎町に住んでいたのでの場海水浴場によく行っていました。竹原花火夏まつり大会も印象に残っていて、土曜日に開催ということで、剣道の練習の帰りにいつも渋滞に巻き込まれながら車の中から花火を見ていました。飲食店というのと、餃子楼大学によく行っていました。剣道の帰りに大人数で食べに行っていました。実は、その影響で竹原で中華のお店を出そうと調理師免許を取りました。

竹原の一番の推しは大久野島だと思っています。何回も行きましたが、自然に囲まれてうさぎと触れ合えるところは他にはないと思います。

●竹原の皆さんへメッセージ

市長や剣道関係の方を中心に、竹原の皆さんには応援いただき、ありがとうございます。皆さんの想いや活躍されている姿が私のパワーになっています。

私は東京パラリンピックで金メダルを取ることが目標に頑張ってきましたので、竹原出身の私がメダルをとることで皆さんへ恩返しを出来ればと思います。金メダルをもって竹原へ帰りますので、楽しみにしてください。

また、ゴールボールという競技がまだ認知されていないので、パラリンピック後には、竹原で体験イベントをするなど、魅力を伝えていきたいと思っています。



たぐち ゆうじ
田口 侑治さん プロフィール

竹原市出身で大乘小学校、竹原中学校を卒業し、高等学校時代までを竹原で過ごした。

現在はリープラス(株)に所属しゴールボール選手として活躍しており、東京2020パラリンピックの代表選手に選出されている。



▲ゴールボールでは、完全に見えなくするためにゴーグルを着用して試合を行う。



▲平成30年の大乘小学校訪問時の様子。今年にはオンラインで児童からの激励会を開催した。